

# SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和3年9月15日(水)  
(2021年)

地域企業紹介 74

## 有限会社山内エンジニアリング

### お客様への貢献 社会への貢献 それは“ものづくりの可能性の追求”

金属プレス加工用金型の設計・製作、技術シーズの発掘によるVA・VE提案を主な事業とする有限会社山内エンジニアリングの代表取締役である山内章社長を相模原市中央区田名の本社工場に訪ねました。

山内章社長は、常磐炭田があった福島県内郷市(現いわき市)の出身。いわき湯本温泉やスパリゾートハワイアンズ(旧名:常磐ハワイアンセンター)が有名で、温暖な気候と自然にあふれた国内でも数少ない風光明媚なところだ。少年時代は地元の小中学校に通い、その後、隣接する旧湯本町の高校に進学。高校3年生当時、常磐ハワイアンセンターの開業記念イベントで、同級生と共にエレキバンドのベース担当として、ベンチャーズの楽曲を演奏。ちょうど、国内でもブルー・コメッツなどのグループ・サウンズが流行っていた頃で、今でも懐かしい思い出として残っているそうだ。

高校卒業後、アイダエンジニアリング株式会社に就職、入社3年目からは金型関連部署に配属された。20代の頃は、各種製品の持ち込みと設置調整をするスーパーバイザーとして、ソ連、ポーランド、イギリス、中国、韓国、台湾などへ単身で出張することが多かった。短くて2週間、長くて半年間にわたる出張もたびたびあったとのこと。特に思い出に残っているのは、真冬の1月に出張したウクライナ。マイナス30℃となる現地は、外出禁止令が出るほど寒かったそうだ。

アイダエンジニアリングに勤務した27年間の殆どを金型関連部署で過ごした山内社長は、金型に関する様々な知識と技術を習得すると共に、とことん金型に魅了されてしまったのだという。金型の魅力は、なんといっても結果がすぐに分かること。もともと金型は失敗ありきで、なかなか上手くいかない。常に創意工夫とチャレンジ精神をもって課題を解決し、高品質なものに創り上げていく。そこがとても面白く楽しいのだと山内社長。

創業のきっかけは、バブル経済崩壊後の1990年代半ば、勤務会社の方針が変更されたことと金型を通じて“ものづくりの可能性の追求”に挑みたいという強い思いがタイミングよく重なったこと。4年間の個人事業主時代を経て、1999年10月に法人設立。個人時代に知り合った大西専務との二人三脚で同社は始まった。当初は設備も人手もなく設計のみを受注しながら、地道な努力で取引先を増やしてきた。

創業以来、新しいテーマに向かった金型づくりに邁進し、マグネシウム成形、ステンレス成形等の難加工材の成形、減肉、増肉成形、超精密絞

代表取締役 : 山内 章 (やまうち あきら)  
所在地 : 神奈川県相模原市中央区田名 2327-2  
従業員数 : 8名  
資本金 : 500万円  
事業内容 : 金型製作・プレス加工試作・自動化コーディネート・  
コンサルタント  
URL : <http://yama-eng.com/>

り成形、さらには高速トランスファによる絞り成形等に挑戦し続けてきた。海外向け金型製作にも数多くの実績を持ち、輸出手続きから現地出張、量産稼働確認までに対応している。また、見積依頼も3日以内に回答するなど少数精鋭体制でスピーディーな対応にも定評があり、試作(工法開発)から量産型の加工工程の見極め、量産設備の選定、量産金型の製作、稼働確認までを一貫して請け負うことができることも同社の大きな特徴だ。

そんな同社は、平成28年度：戦略的基盤技術高度化支援事業(略称：サポイン)では、従来、切削加工していた内径凹凸加工の画期的新工法となる「円筒絞り部品への内径加工を汎用プレス機のみで完結できる金型の開発」で採択された。現在では、2度目となる令和元年度のサポインで採択された「圧倒的な高品質・低価格を実現するプレス複合深絞り技術を具現化した汎用プレス機用金型の開発」に取り組んでいる。2030年におけるEV/PHV用リチウムイオン電池の需要増加予測を見据えて、アルミ角深絞りケース<複合成形工法>を確立した金型に汎用性を付加し具現化することで、大手メーカーや海外勢を凌駕するQCD(品質・コスト・納期)を武器にした強い中小サプライヤーの創出に寄与することを目的に

している。主にプレス工程数、製品精度、加工速度、材料歩留まりの改善により製品コスト低減を目指している。こうしたチャレンジは、郡司営業部長が中心となって推し進めており、企業力アップをはじめ若手社員の成長やモチベーションアップにもつながっている。

昨今、自動車業界は大きな変革期を迎えている。今後、電気自動車(EV)や燃料電池車(FCV)の技術開発はますます加速していく。厳しい金型業界の中で勝ち残っていくためにも技術向上は欠かせない。そして、技術向上の秘訣は「根気強さとあきらめないこと」だと山内社長。半世紀近くもの長い間、金型に携わってきた経験から滲み出る思いだ。今後の課題は人材確保。課題解決のためにも若い人たちに仕事のやりがいをもって働いてもらえるような会社にしていくことが大事だと語る。そんな山内社長の楽しみは健康管理を兼ねたゴルフと赤ワイン、そして早朝の散歩だそうだ。

金型をこよなく愛する山内社長は、社員のみならずとも、さらなる低価格化、短納期化、高精度化の実現のために、これからも“ものづくりの可能性の追求”に挑み続けていく。これこそが、お客様への貢献、社会への貢献となり、自らを研鑽する道であると信じ邁進していく山内エンジニアリングの挑戦に終わりはなさそうだ。

## 経験の枠を超越し、 日本の製造業を“人が最も輝く居場所”にする！

入居企業紹介

75

株式会社トランセンド

AI・画像処理技術や専用設計のロボットハンド・ツールチェンジャーなどを組み合わせたロボットシステムの開発を手掛ける株式会社トランセンドの大野慶 取締役・最高技術責任者(CTO)にお話を伺いました。

トランセンド社は、相模原市内のロボットシステムインテグレーターであるJET株式会社(代表取締役 遠藤 法男 氏。トランセンド社 代表取締役)と永進テクノ株式会社(代表取締役 鈴木 道雄 氏。トランセンド社 取締役)の2社が、多品種小ロット日配品向け自動仕分けシステム「トランセンド」シリーズの設計・製造を中心とした事業を展開するため、2016年に共同で設立した会社です。SICには、2019年10月より、SIC-2 R&D Lab.に入居しています。

自動車業界などでは、すでに多くのロボットが導入・活用され、生産性の向上が図られてきました。しかしながら、ロボットの導入経験に乏しく、社内に生産技術部門を持たない企業では、自動化システムの構想を練ることすら難しいのが現状です。同社では、「トランセンド」シリーズの設計・製造に加えて、今後ロボットの普及が期待される三品業界(食品・化粧品・医薬品)、特に食品業界への自動化提案に力を入れています。

食品業界は、慢性的な人手不足に直面している一方で、人の目や手作業に依存した製造工程が数多く残されています。したがって、ロボットに対する期待は大きいものの、実際には様々な障壁があり自動化はあまり進んでいません。例えば、食品の製造工程においては、厳格な衛生管理が求められることが挙げられます。また、扱う製品の大きさや硬さ、形などが多岐にわたることも課題の一つです。さらに、消費者の嗜好や流行の変化に応じて、生産品目や生産量が頻繁に変わることも考慮する必要があります。これらの障壁を背景に、自動化システムにも柔軟性や汎用性が求められるため、結果として自動化・ロボット導入を断念するケースも少なくありません。

トランセンド社では、これらの課題解決に資する自動化を目指して、コンサルティングから設計・部品調達・組立・プログラム導入・稼働・メンテナンスまでを一気通貫で担っています。特に、独自開発した画像解析ソフトやユニークな搬送機構は、高性能な自動化システムの実現に大きく寄与しています。例えば、コンビニの弁当・総菜など数百種類の製品や形がまばらな食材から、カメラレンズのように透明なものに至るまで、

量も形も色も的確に認識することができます。この画像解析ソフトと機構設計・制御の技術を掛け合わせることで、食品業界を中心に、様々な分野・作業の自動化を実現させてきました。また、JET社の開発力と永進テクノ社の施工力・ネットワーク・メンテナンス力なども活かすことで、顧客が抱える様々な課題の解決がより一層後押しされています。

「経験の枠を超越し、日本の製造業を“人が最も輝く居場所”にする」ことを理念に掲げるトランセンド社。自動化・ロボットシステムを通して、日本の製造業を変えていきます。



株式会社トランセンド  
SIC-2 R&D Lab. 2315 号室  
<https://www.transcend.expert/>



まったく収束する気配のない新型コロナウイルスですが、第2回も、引き続き新型コロナウイルス感染症に社会保険労務士として、どの様に対応したかをお話したいと思います。

### 新型コロナウイルス感染症への対応②

新型コロナウイルスが流行して、すぐに私の事務所にも、「うちはどう対応したらいい?」「休業させた方がいい?」「緊急事態宣言が出ているから給与は払わなくていい?」「テレワーク?」「時差出勤?」「雇用調整助成金は賃金を何割補償すればいい?」等々、たくさんのお問い合わせを頂きました。この様な状況の際に、一番しなければならないことは、とにかく従業員とよく話し合うことです。会社がどの様な対応をしたいかをよく説明して理解を求め、感染防止のために、テレワークや時差出勤等を検討する。緊急事態宣言が出たことを理由に即給与を支払わなくてもよいということにはならないので、雇用調整助成金等を使い休業させる場合については、その必要性と休業手当の割合を説明し協議する。そして、経営不振によりやむを得ない状態となった場合には、最終手段として従業員に説明し協議し、手順を踏んで人員を整理する。

この様に、会社として従業員と話し合いの場を持ち、説明義務を果たすことで、万が一、最終的に解雇等やむを得ない状況になった場合も、いくつかある整理解雇(リストラ)の要件をクリアしていくことになります。もちろん、解雇という最終手段はできる限り回避すべきだと考えますが、

やむを得ず整理解雇を行う場合にも、何の説明も協議もなく解雇を行ってしまうと、コロナ禍での経営不振の上に、更に労働紛争のリスクを抱えることとなりますので、会社ができる最大限の感染防止策を講じ、従業員とよく協議をして説明義務を果たすことが絶対条件となります。

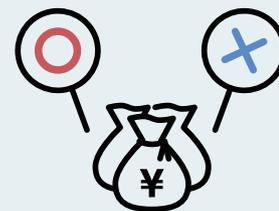
コロナ禍であるからこそ、従業員の協力はなしでは乗り切ることが出来ないと思います。コロナはいずれ収束しますので、その日まで何とか乗り切る策を労使双方で考えていくことが重要です。



### 雇用調整助成金の最大の弱点

雇用調整助成金の最大の弱点は、社会保険料が免除にならないことです。社会保険料の猶予については、新型コロナウイルスの影響により納付が困難な場合で、一定の条件を満たした場合は認められることがあります。この場合でも、あくまで猶予であって免除ではないということに注意が必要です。また、雇用調整助成金を

使って従業員に休業手当を支払っている間も社会保険料が免除になりません。この社会保険料の負担が、ボディーブローのように会社にダメージを与えてきます。ですので、どうしても休業に至らない状況に戻していかなければなりません。飲食店等のように、政府から休業要請が出され休業している場合などは、一定の補助金が支給されますが、それでも厳しい経営状況の会社が多いです。補助金等がない業種の場合は、何とかして雇用調整助成金を受けなくても済む状態に戻さなければ少しずつ疲弊していきます。ですので、雇用調整助成金のメリットを生かしつつ、その最大の弱点を把握して、今後の事業展開を考える必要があります。



鈴木道士行政書士・社会保険労務士事務所  
代表 鈴木道士

大学卒業後は都内の建設会社に入社し、都営地下鉄大江戸線の現場監督などを担当。その後、平成11年に社会保険労務士の資格を取得。資格予備校での講師業を経て平成18年に独立開業。以後、人事・労務の専門家として、地域の企業・経営者の支援に取り組んでいる。

## イーサン食堂

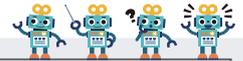
小田急線南林間駅西口から徒歩1分のところにある「イーサン食堂」を訪ねました。マスターの中村さんと奥様のティアンさんが切り盛りするタイ料理のお店で、1993年に現在の地にオープンしました。店名はティアンさんがタイ東北部のイーサン地方出身であることに由来しています。

今回はマスターおすすめ料理の現地で人気抜群の青パパイヤサラダ、イーサン地方料理の牛肉とセンマイの香草和え・豚のど肉の網焼き・鶏の姿焼きを同地方の主食であるもち米と一緒にいただきました。パクチーなどの香草やスパイスが効いた料理は正に本場の味でした。料理はテイクアウトも可能で、電話での予約を推奨しています。

気軽に現地の雰囲気を感じられる食堂。元気なマスターとティアンさんが作る本場のタイ料理を楽しんでみてはいかがでしょうか?ごちそうさまでした!(大谷)



所在地 神奈川県大和市南林間2-10-4  
営業時間 11:30~15:00 17:00~23:00  
(ラストオーダー22:30)  
定休日 月曜日(祝日の場合は営業)  
TEL 046-277-7658  
URL <https://www.e-sanshokudou.com/>  
※緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出時は、HPより営業時間をご確認ください。



## 第5期受講生募集

実践 × ケーススタディで構想力・提案力を UP !

ロボット  
Sler  
養成講座

## 本講座のポイント

1. 実際の企業を題材とした実践型グループワーク
2. 自動化ニーズが高まる分野のケーススタディ
3. Slerに必要な知識を散りばめた技術講座

## こんな方におすすめ!!

- ロボット Sler の若手・中堅エンジニア
- ロボットや関連部品メーカーのエンジニア
- ロボット関連商社の営業スタッフ
- ものづくり企業（ユーザー企業）のエンジニア

## カリキュラム

【事前講義①】 10月上旬 オンデマンド配信  
・付加価値に着目したシンプルな設備設計  
・ロボット Sler のための安全講座

【前期】リアル開催 10月18日(月)～10月19日(火)  
※オンライン参加を希望される方は事前にご相談ください。  
・オンライン時代の戦略的ヒアリング力と発信力  
・事前講義①Q&A  
・現場実習・グループワーク

【中期】オンライン開催 11月17日(水)～11月19日(金)  
・Sler ケーススタディ（食品、マテハン）  
・グループワーク中間発表

【事前講義②】 11月下旬 オンデマンド配信  
・協働ロボット最新動向  
・AI・画像処理の活用講座

【後期】 12月16日(木)～12月17日(金)  
・事前講義②Q&A  
・実習先へのリモートヒアリング  
・グループワーク最終発表

## 募集要項

【期 間】 令和3年10月18日(月)～12月17日(金)  
【会 場】 サン・エールさがみはら / オンライン (Zoom)  
【受講料】 相模原市内事業者：132,000 円 (税込)  
相模原市外事業者：165,000 円 (税込)  
【お問い合わせ】 株式会社さがみはら産業創造センター  
担当：樽川・花摘・佐々木  
TEL 042-770-9119 / E-Mail sier-info@sic-sagamihara.jp  
URL <https://www.sic-sagamihara.jp/robot/seminar/667/>



大学生との交流会  
参加者募集!!

子どもアントレに協賛いただいた企業様と大学生との交流会を開催いたします。大学生の思考（志向）や企業選びの基準などを把握し、採用活動に活かす機会としてご活用ください。

【日 時】 令和3年10月3日(日) 10時～12時  
【会 場】 さがみはら産業創造センター会議室  
【申込み】 メール (kodomo-entre@sic-sagamihara.jp) にてお申し込みください。  
詳細は、別途ご案内いたします。  
①件名：アントレ交流会参加申し込み  
②本文：貴社名、ご担当者名、ふりがな、電話番号、メールアドレス  
【問い合わせ】 子どもアントレ事務局 担当：上野  
TEL 042-770-9119  
E-Mail kodomo-entre@sic-sagamihara.jp

<子どもアントレ 協賛のお願い>  
子どもアントレならびにアントレ・チャレンジは、地域の皆様からのご協賛によって支えていただき、運営しています。ご協賛は随時受け付けています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます

自分の知らない世界を垣間見る。  
QKAIMAMI

就活スタートアップセミナー  
参加学生募集!!

地元相模原で就活している皆さん、そしてこれから始めようとしている皆さん。「何から始めたらいいの?」「自己分析ってどうやるの?」「地元で働きたいんだけどどんな会社があるの?」「地元の会社って大丈夫?」など、たくさん疑問や不安があると思います。

そんな疑問や不安にお応えしたいと思い、講師を迎えてセミナーを開催します。就職活動の全体像を整理・理解して、就職活動のスタートにしませんか?

【日 時】 令和3年11月14日(日) 14時～17時  
【会 場】 杜のホールはしもと (セミナールーム2)  
【対象者】 地元で就職活動をしている学生の方 (全学年参加 OK! )  
【参加費】 無料  
【服 装】 私服 (※スーツ不可)  
【その他】 オンライン視聴可  
【申込み】 サガツクナビ WEB サイトより  
<https://sagatukunavi.com/>  
【問い合わせ】 さがみはら産業創造センター  
TEL 042-703-6321  
E-Mail sagatukunavi@sic-sagamihara.jp

## 2021.9～10 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

令和3年10月18日(月) ロボットSler養成講座 開講(全9回)

SIC空室情報 (令和3年9月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

現在、空き室はございません。最新の情報はHPをご確認ください。

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

## 編集後記

「感動・感激・感謝されるものづくり」を理念に掲げる山内エンジニアリングの山内社長。仕事を通して、お客様から感謝の言葉をいただいた瞬間は、何ものにも代えがたい喜びです。先日閉幕した東京オリンピック・パラリンピックでは、多くの感動的なシーンを観ることができました。皆さんが最近感動したのは、どのような出来事でしたか?



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)  
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21  
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077  
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を  
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>